

第8章 社会連携・社会貢献

1. 現状の説明

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

評価の視点

- ①社会連携・社会貢献に関する方針を、学部・研究科の理念・目的を踏まえながら定め、その方針を教職員で共有しているか。
- ②社会連携・社会貢献に関する方針において、産・学・官等との連携の方針、地域社会・国際社会への協力方針を明示しているか。

〈1〉 大学全体

大学全体の「社会連携・社会貢献に関する方針」を以下のとおり定めている（資料8-1）。

美術・デザインの専門大学として、教育・研究成果等を社会に積極的に還元することにより、社会連携・社会貢献を進め、もって文化の創造発展に寄与することを方針とする。

具体的には、地方自治体との連携、美術館・図書館を中心とした学内展示施設や gallery αM、デザイン・ラウンジ等で開催する展覧会・シンポジウム等の公開、ネットワークを通じたデジタル・アーカイブの公開、企業等との連携による共同研究・受託研究、公開講座の実施、地域社会との交流、国や地方自治体等の政策形成への寄与等の活動を通して積極的に社会連携、社会貢献を図る。また、国際交流締結や国際交流プロジェクトの実施など海外の美術・芸術大学との協働を拡充し、国際芸術都市への研究者派遣、訪問教授の招聘、外国人研究員の受け入れ等の継続・充実を図るとともに、ICOGRADA（国際グラフィックデザイン団体協議会）、ICSID（国際インダストリアルデザイン団体協議会）への加盟など様々な活動を通して、研究成果の公開や学外の研究者・留学生との情報交換・交流に努め、国際社会への貢献を図る。

「社会連携・社会貢献に関する方針」は造形学部教授会により教職員に周知が図られているとともに、大学 web サイトで公表している（資料8-2）。社会連携・社会貢献活動の実践面においても方針に沿って取り組みが行われており、学内に方針が浸透している状況である。

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

評価の視点

- ①方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。
- ②社会連携・社会貢献の適切性について、定期的に検証を行っているか。

<1> 大学全体

① 地方自治体との連携

鷹の台キャンパスのある東京都小平市との関係では、スポーツ祭東京関連のデザイン、防災マップのデザインなど小平市役所との協働事業、各学科研究室が窓口となって、地域を活動フィールドとした正課・課外の授業など多様なプロジェクトが実施されている他、授業課題として学生が市に提案した「地域宣伝隊コダレンジャー」や本学学生がデザインしたロゴマークから派生した「ぶるべー」が小平市のキャラクターとして市民に浸透している。また小平市が参加する小平グリーンロード推進協議会に委員を派遣するとともに、グリーンロードを構成する緑道に設置されているブロンズ像のメンテナンスを本学教員と市民の共同で行っている。2013（平成25年）3月には、地域連携・大学間連携・社会貢献の観点から設立された「小平市大学連絡協議会～こだいらブルーベリーリーグ～」に本学も参加した。本学の他小平市内の5大学（嘉悦大学、白梅学園大学、津田塾大学、一橋大学、文化学園大学）が参加している。協議会では地域社会の発展と人材の育成を目的として、行政と大学、あるいは大学間の連携を進めるため、意見交換や情報共有を図ることを目的に定期的な会議を実施するほか、共同で分科会を設け、それぞれのテーマに即した連携を実践していく予定である（資料8-3）。その他小平市との連携として、学生の自主企画として市内の公園等でアート作品展示を行う「小平アートサイト」は1988（昭和63）年の「鷹の台野外彫刻展」より継続して開催されている。小平市との主な連携の取組は、以下のとおりである。

- ・小平市防災マップリデザイン
- ・小平市「スポーツ祭東京2013」デザイン
- ・「玉川上水サミット」ポスター等デザイン
- ・小平駅南口自転車駐輪場壁画看板の原画デザイン
- ・小平グリーンロードシンボルマークデザイン
- ・小平東部公園アート公園化研究
- ・小平市ブルーベリー栽培発祥の地シンボルマークデザイン
- ・小平グリーンロード齋藤素巖ブロンズ像メンテナンス
- ・小平アートサイト（学生による企画。1988年「鷹の台野外彫刻展」より名称を変えながら継続）
- ・基礎デザイン学科「色彩論Ⅱ」等 小平市の公共デザイン
- ・小平市民会館（現ルネこだいら）壁面レリーフ制作

新潟市との連携として、2009（平成21）年度より「わらアートまつり」における稲わらによる巨大オブジェの制作を受託し、教員の監修のもと学生グループが企画し、現地で制作している（資料8-4）。オブジェは8月下旬から9月初旬に2日間開催される「わらアートまつり」とその後10月頃まで会場である公園に展示され、多くの来場者が会場を訪れた。新潟市の中でも西蒲区は観光に力を入れており、本学の活動が地域活性化に寄与している。新潟市との関係は、旧岩室村（現在の新潟市西蒲区）との「アートサイト岩室温泉」及び、「現代GPいわむろのみらい創生プロジェクト」からの関係が継続しているものである。

また2012（平成24）年度に茨城県笠間市からの委託により、笠間市トータルデザイン連

携事業を実施した。基礎デザイン学科の教員と学生による課外ゼミナールが、笠間市の歴史や自然、進行中の事業などの現状を踏まえた空間形成の研究により、居住空間の快適性の向上及び交流・定住人口の増加に資する景観等の向上のためのデザインに取り組むものである。2013(平成25)年3月に、笠間市役所にてそれまでの活動発表を行い、笠間市関係者より高い評価を得て、2013(平成25)年度に継続している。

② 美術館・図書館

2010(平成22)年3月に新図書館が竣工、2011(平成23)年6月に大学美術館がオープンし、「武蔵野美術大学美術館・図書館」としてリニューアル開館した。この施設は、大学美術館と大学図書館としての2つの大きな機能を持ちながら、さらに民俗資料室と映像表現の研究の場としてイメージライブラリーを有する「美と知」を統合した新しいシンボルとして図書資料、美術・デザイン作品、民俗資料、映像資料など、それぞれ属性や扱いの異なる様々な資料群を有機的に結びつけて横断的に活用することを可能としている。美術館については一般の美術館と同様に全て一般公開し、教員がパネリストとなり学会発表を一般向けに開放したり、広報活動の実践として体験イベント「あいさつを刷る～やってみよう初めての活版印刷～」などの学生主導のプログラムを行い、ワークショップなど一般の方が参加可能な活動を行っている。それらの活動は、美術館・図書館運営委員会で参加者・入場者数やアンケート結果など活動状況報告を行うなどの定期的な検証を行っている。

また、本学は、文部科学省より「平成20年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受けて、全学の研究組織である「造形研究センター」を美術館・図書館に創設した。センターでは研究事業として「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」を柱に掲げ、本学が所蔵する多様な分野の資料の保存・活用・公開のための戦略的な研究基盤の形成を目指している。3本の研究プロジェクト「近代デザイン資料プロジェクト」「映像資料プロジェクト」「民俗造形資料プロジェクト」では、それぞれの造形資料に適したデータベースの分析と開発を進め、本学独自の統合データベースを構築すべく、さらには教育研究の未来に向けて活発な研究が進められている。

2013(平成25)年5月から美術資料データベース、貴重図書データベース、図書資料データベース、雑誌・逐次刊行物データベース、映像資料データベース、民俗資料データベースを連携させた『統合検索データベース』を公開した。個別のデータベースにその都度アクセスし、一元的な情報しか得られなかった検索環境は、この統合検索データベースによって本学美術館・図書館が収集保存してきた約40万点にのぼる多種多様な所蔵資料が、フリー・キーワードによって横断的に情報が得られるというデータベースのワンストップ・サービスを提供することが可能となった。現在は荒俣宏氏旧蔵の貴重書全ページを閲覧できるアプリケーション「MAUM&L 博物図譜」を、アプリケーションストアを通じて無償で提供している。

③ αMプロジェクト

1988(昭和63)年、本学は大学発祥の地、吉祥寺にギャラリーαMを開設した。このギャラリーは、「都心と多摩地区の接点に位置する吉祥寺に、新たな文化運動の拠点となるような作品発表の場の設置」、「ユニークな活動を展開している若いアーティストに作品発表の機会を与える」等の要請に応えると同時に、大学と社会との接点としての役割を担

うものとして設置された。吉祥寺のギャラリーαMは2001（平成13）年度に閉じられ、2002（平成14）年4月から既存のギャラリーを使用するαMプロジェクトとして再スタートした。新たにαMプロジェクト運営委員会が組織され、それまでのギャラリーαMのコンセプトを継承しつつ、委員会で年度ごとにゲストキュレーターを決定、ゲストキュレーターのもとで、展示の企画立案が行われている。

2009（平成21）年からは、千代田区東神田に再びギャラリーαMを開設し、ギャラリーαMを会場として、年6～9回の「αMプロジェクト」の展覧会を開催している。

2012（平成24）年度は、「αMプロジェクト2012 絵画、それを愛と呼ぶことにしよう」を作家10名による年9回の企画展として開催し、合計8,104名の来場があった。文化庁委託事業「平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に申請・採択され、委託事業の指定を受けた。

④ 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ

本学デザイン教育研究活動の情報発信拠点として、六本木の東京ミッドタウン・デザインハブ内に2012（平成24）年4月より武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジを開設した。公開講座やワークショップなどのイベントや地域や企業との連携活動、デザインに関するアーカイブの作成、展示活動を実施し、これからのデザインやデザイン教育を議論しながら、美術大学の社会貢献力を強め、企業・大学がつながりを持てる場所を目指すことを目的としている。教員で構成された武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ運営委員会が発足し、その運営に当たる。

武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジでは、ミッドタウン・デザインハブ企画展「ムサビのデザイン～武蔵野美術大学デザインコレクションと教育～」の企画・運営などの展示活動を初めとして、公開講座「トップデザインセミナー」などのセミナー・フォーラム、東京工業大学との合同授業、「港区ミッドストリート」など地域・企業との連携活動など様々な活動を実施した。

⑤ 企業等との連携

企業等の連携においては、産官学受託研究・共同研究を全学的なサポートのもと展開するために、窓口として研究支援センターを設置、それと共に産官学共同研究推進委員会を組織し、受入れを行っている（資料8-5、8-6）。意義のある成果を生んでいるだけでなく、学生を参加させることにより、学生の実践力を養うとともに、幅広い視野を培う機会ともなっている。

2012（平成24）年度においては、企業との連携による受託研究を5件実施した。そのうち1件は東京都産学連携デザインプロジェクトによる企業との受託研究である。その他、公園や劇場を運営する公益法人との連携による受託研究を2件実施した。取組は以下のとおりである。

- ・(株) イセキ「在来種マルハナバチの生態環境デザイン」（東京都産学連携デザインプロジェクト）
- ・(公財) 東京都歴史文化財団「江戸東京たてももの園・紅葉とたてもものライトアップ」
- ・赤城乳業(株)「アイストリームプロジェクト」
- ・第一屋製パン(株)「和洋菓子系商品の別ブランドロゴデザインの考案によるブランデ

ィング」

- ・東日本旅客鉄道（株）「JR 中央線ラインモール計画」
- ・（株）東海理化「産学協同プロジェクト 2012」
- ・（公財）府中文化振興財団「府中の森芸術劇場ディスプレイ」

⑥ 公開講座

本学では、大学での教育及び研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命 1991（平成 3）年度より公開講座を開講している。

2012（平成 24）年度は、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジを会場に、「これからの日本のデザイン」をテーマとした一般向け有料の公開講座「トップデザインセミナー」を合計 8 講座実施した。年間テーマはデザイン・ラウンジ運営委員会で決定し、教授会での審議を経て運営している。武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジが六本木にあることから、一般の社会人でも参加できるよう、開始時間を夜 18 時以降に設定し、合計 502 名の参加者があった。

⑦ 地域社会との交流

本学では、1995（平成 7）年度から校友会との共催により、地方で地域フォーラム「アート&デザイン」を開催している。1995（平成 7）年度から 1997（平成 9）年度までは毎年 2 会場で、1998（平成 10）年度以降は毎年 1 会場で開催、本学教員や地元の有識者を講師、パネリストとして迎え、地方自治体、大学等との連携のもと、近年はワークショップやパネルディスカッションを中心に実施している。2012（平成 24）年度は、宮城県仙台市にて「アート&デザイン 2012 東北」ーワタシニデキルコトーと題したシンポジウムを、本学、本学校友会、校友会宮城支部の共催で開催した。

また、2013（平成 25）年 3 月に開催した「アートサイト岩室温泉 2013」は、2003（平成 15）年から 2 年に 1 回開催しているアートイベントで、岩室温泉（新潟市）の旅館・施設に本学学生の卒業制作作品の展示とワークショップなどの関連イベントを、岩室温泉旅館組合・岩室温泉観光協会を中心としたアートサイト実行委員会の依頼により開催・運営し、多くの来場者があった。

⑧ 国や地方自治体等の政策形成への寄与

国、地方自治体等から本学教職員の専門分野での知見を求めて、各種審議会委員・審査委員・調査委員等の委嘱がある。2012（平成 24）には、派遣先の機関から委嘱状の請求のあったもので 32 人、延べ 39 の機関から 50 の委員等の委嘱を受けた。

⑨ 国際交流

本学では、美術・デザイン領域のグローバル化に対応して、異文化間交流の促進や教育研究の新たな展開のために、様々なレベルでの国際交流活動を展開している。この交流の中には、学生の交流、教員（研究員）の交流、学術交流、国際シンポジウムの開催と参加、作品交換、学術資料、情報の交換、国際会議の開催などが含まれている。本学では国際交流に関する理念を大学webサイトに掲載し（資料 8-7）、国際交流を推進する組織として

国際センター、学長の附属機関として国際交流委員会を設置して、国際交流の在り方に関して検証を行っている。

海外教育機関との交流については、2012（平成24）年度現在、本学では次のとおり、21の海外大学、教育機関と交流協定を締結している。

- ・中国美術学院(中国・1994（平成6）年交流協定締結)
- ・パリ国立高等美術学校(フランス・1996（平成8）年交流協定締結)
- ・アールト大学美術デザイン建築学部(フィンランド・1996（平成8）年交流協定締結)
- ・チリ・カトリック大学DUOC財団設立専門機関(チリ・1997（平成9）年交流協定締結)
- ・ミラノ工科大学デザイン学部(イタリア・2001（平成13）年交流協定締結)
- ・ノッティンガム・トレント大学芸術・デザイン学部(イギリス・2002（平成14）年交流協定締結)
- ・弘益大学校（韓国・2002（平成14）年交流協定締結)
- ・ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン(ドイツ・2004（平成16）年交流協定締結)
- ・東西大学校（韓国・2005（平成17）年交流協定締結)
- ・デンマーク王立芸術アカデミー建築学部（デンマーク・2005（平成17）年交流協定締結)
- ・上海戯劇学院（中国・2005（平成17）年交流協定締結)
- ・シカゴ美術館附属美術大学（アメリカ・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・プラット・インスティテュート（アメリカ・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・ロンドン芸術大学（イギリス・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・ベルリン芸術大学（ドイツ・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・スウェーデン国立芸術大学（スウェーデン・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・コンストファク/スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学（スウェーデン・2006（平成18）年交流協定締結)
- ・グラスゴー美術学校（イギリス・2007（平成19）年交流協定締結)
- ・上海視覚芸術学院（中国・2007（平成19）年交流協定締結)
- ・ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン(アメリカ・2009（平成21）年交流協定締結)
- ・バンドン工科大学(インドネシア・2010（平成22）年交流協定締結)

海外協定教育機関のうち、パリ国立高等美術学校、プラット・インスティテュート、アールト大学美術デザイン学部、ミラノ工科大学デザイン学部、ベルリン芸術大学、弘益大学校の6大学と協定留学を実施している。協定留学では各大学に年間6校7名を派遣し、協定大学より各1～2名受け入れを行っている。2012（平成24）年度の実施状況は派遣5名、受け入れ9名であった。また、受入れ留学生全体では2013（平成25年）5月現在、220名の留学生を受け入れている。

本学では、専任教員による海外高等教育機関との授業交流を、2006（平成18）年度より国際交流プロジェクトとして制度化している。2012（平成24）年度までに40件の国際交流プロジェクトが実施され、うち2012（平成24）年度の実施件数は6件である。内容は、専任教員が学生を引率し1週間程度のワークショップの実施、教員のみが海外の教育機関を訪問し情報交換を行うものなどである。

学生が自主的に国内外で実施する国際交流企画について、企画を募集し、採用された企画に対し活動支援金として10万円を助成する、学生の国際交流企画の補助を行っている。2012（平成24）年度は3件実施した。

武蔵野美術大学パリ賞は、1965（昭和40）年に学校法人武蔵野美術大学によって創設され、本学が使用権を有する「国際芸術都市」アトリエへの1年間の入居を認める賞で、年間2名に授与される。本学を卒業又は修了した卒業生の中から国際的視野を持ち、将来の活躍が期待される者に、ヨーロッパに留学し、創作研究活動を行う機会を与え、支援するものであり、これまでに多くの卒業生を派遣している。

国際的な教育機関への加盟としては、ICOGRADA（国際グラフィックデザイン団体協議会）- International Council of Graphic Design Associations と ICSID（国際インダストリアルデザイン団体協議会）- International Council of Societies of Industrial Design の2団体に加盟し、会議に教員を派遣するなど国際交流を図っている。ICOGRADAはグラフィックデザイン、ビジュアルコミュニケーション、デザインマネジメント、プロモーション、教育、リサーチ、ジャーナリズムを網羅し、各分野におけるデザイナーの活発な社会的活動を推進し、デザイナーを世界的に連携させていくことを目的としている団体である。ICSIDは世界的なプロダクト、環境デザイン系の非営利団体で、政府系団体、企業、専門家団体、教育機関などで構成され、工業デザイン分野への発展振興に貢献している団体である。

2012（平成24）年度より5年間、文部科学省平成24年度グローバル人材育成事業（特色型）の採択をうけ「武蔵野美術大学グローバル人材育成事業」を展開している（資料8-8）。美術・デザインにおける高度な専門技術と知識を活用できる様々な能力を身につけ、なおかつ、海外においてもそれらをいかんなく発揮するために必要かつ十分な外国語力を身につけた人材を育成することを目標として、国際的な舞台に羽ばたく「人財」の育成に力を入れている。本事業により国際交流に関するプロジェクトを増やし、人材の交流等がより活発に行うことによって、国際的な貢献を行っている。

2. 点検・評価

●基準8の充足状況

別紙資料「大学評価における評価の視点・評価基準等」に基づく評価の視点4項目は、すべて基準をおおむね充足しており、評価結果は4項目ともAである。よって大学基準としての総合評価はSであり、同基準を十分に満たしている。

①効果が上がっている事項

<1> 大学全体

社会連携・社会貢献は、社会との連携・協力に関する方針に沿って行われており、取組として方針が共有されている。自治体との連携については、2013（平成25年）3月に設立された「小平市大学連絡協議会～こだいらブルーベリーリーグ～」に参加したことにより、

本学が所在する東京都小平市との連携が図られた他、東京都以外の地域との連携活動も実施されている。美術館・図書館等での展覧会、産官学共同、公開講座、地域社会との交流事業も多様な取組が行われている。国際交流に関しては、国際交流の理念をwebサイトで公表し、海外教育機関との交流、国際交流プロジェクト等積極的に実施されている。これらの活動は教員による委員会によって検証を行っている。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

<1> 大学全体

国際交流については、国際センターが大学webサイト等を通じて積極的な情報発信を行っている。その他の社会連携活動においても、広報入学センターや企画部研究支援センターが中心となって、学内の社会貢献に関する情報を集約し、大学webサイトや大学案内などを通じて本学の基本姿勢やビジョン、取組内容、成果等をより効果的に社会に広く情報を発信していく。

特に地方自治体・地域社会との連携に関しては、小平市大学連携協議会が発足したこともあり、産官学共同研究推進委員会が中心となって、地域をテーマとした授業の展開など実践的な教育活動の場として、あるいは美術普及活動の場として活用していく可能性を含め、地域連携の在り方について検討を行い、地域連携理念の策定を進め、地域と大学の連携のより一層の推進を行う。

4. 根拠資料

8-1 各種方針資料(既出)

8-2 武蔵野美術大学 HP

<http://www.musabi.ac.jp/outline/evaluate/external/second/index.html#03>

8-3 小平市 HP 「小平市大学連携協議会」

<http://www.>

8-4 新潟市西蒲区 HP 「わらアートまつり」

<http://www.city.niigata.lg.jp/nishikan/about/kankou/wara-art/index.html>

8-5 武蔵野美術大学産官学共同研究規則

8-6 武蔵野美術大学産官学共同研究推進委員会規則

8-7 武蔵野美術大学 HP

<http://www.musabi.ac.jp/collaboration/international/>

8-8 武蔵野美術大学 HP

<http://global.musabi.ac.jp/>